

備前市事務事業評価シート

(平成20年度事業)

事業の概要		事業開始年度		昭和59年度～		根拠法令・規程等		沿岸漁場整備開発法	
総合計画	大項目	基本目標	04	もてなしの心とたくましさのあるまちづくり		問	担当課(室)	日生総合支所管理課	
	中項目	基本施策	01	豊かな食を支えるまちづくり			職・氏名	課長補佐・濱山 一泰	
	小項目	施策	03	水産業			電話	0869-72-1259	
事務事業名		02		栽培養殖漁業資源回復等対策事業					

事業の実施		対象(誰・何に対して)		地元漁業協同組合等	
目的(何のために)		漁業資源の回復と安定的な漁獲量を維持するため、岡山県栽培漁業センターで生産するとともに、尻海・大富中間育成場で中間育成された種苗を放流し、水産物の安定供給の確保及び漁業生産・経営の安定と向上に資する			
行政活動(どのような方法で)		サワラの中間育成に対する支援や種苗生産、中間育成及び放流する「つくり育てる漁業(栽培漁業)」に対する負担金			
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)		水産物の安定供給の確保及び漁業生産・経営の安定と向上			

事業の実績					
活動	実施項目	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
	サワラ種苗放流尾数	尾	7,216	14,365	7,116
	ヨビ・カサヒ・ガサミ・ヒメ・ヒメワビ等種苗放流尾数	千尾	1,940	1,574	1,525
実績	直接事業費	千円	1,016	1,040	998
	必要人員人件費		0.24人	0.09人	0.11人
	事業費	千円	2,744	1,713	2,018
	国・県・市・支・出・金				
	受・益・者・負・担				
経費	総・入・金	千円			
	市・債				
	そ・他				
	一・般・財・源		2,744	1,713	2,018
	受・益・者・負・担・比・率	%			

結果指標名		単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
結果指標①	サワラ放流尾数	尾	7,216	14,365	7,116
	対前年比	%	-	199.1%	49.5%
	活動コスト	円	976,000	349,000	494,000
	単位当たりコスト	円	135	24	69
結果指標②	ヨビ・カサヒ・ガサミ・ヒメ・ヒメワビ等放流尾数	千尾	1,940	1,574	1,525
	対前年比	%	-	81.1%	96.9%
	活動コスト	円	1,768,000	1,364,000	1,524,000
	単位当たりコスト	円	911	867	999

事業の成果						
歩留まり(%)	成果指標名	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	到達目標値
		目標値(A)	50	55	60	70
		実績値(B)	40	56	62	到達目標年度
		達成率(B/A)	80.0%	101.8%	103.3%	毎年

成果指標設定の考え方・式や説明
 サワラ放流尾数/サワラ受入尾数
 香川県独立行政法人水産総合研究センター屋島栽培漁業センターで生産されたサワラ種苗を受入、中間育成後、放流する。

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		妥当性の評価		市民ニーズ		効率性の評価		有効性の評価	
市の関与の妥当性	必要性	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたさず <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 類似した事業がある				妥当性評価<A~E> 判定理由・課題認識 県のサワラ放流追跡効果によると、種苗放流による資源増大が極めて有効であることが実証されており、妥当である。			
	市民ニーズ	<input checked="" type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い 説明 漁業資源の回復と安定的な漁獲量を維持するための有効な手段である。				効率性評価<A~E> 判定理由・課題認識 栽培漁業負担金の負担額は、算出根拠(均等割及び受益者割)で決まっている。また、毎年、県において種苗ごとの生産目標尾数があり、放流魚種及び尾数については県が決める。			
市民関与の効率性	コスト	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託等)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input checked="" type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている				有効性評価<A~E> 判定理由・課題認識 H20サワラの放流効果調査結果(標識漁獲率) ・1才魚 20.7%・2才魚 25.4%・3才魚 17.4% 資源増大には種苗放流が有効である。			
	目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている				有効性評価<A~E> 判定理由・課題認識			

平成21年度の状況		目標値		結果指標量①		結果指標量②		成果指標量	
目録値	結果指標量①	13,000		500		65			
状況	拡充	現状継続		見直し		縮小		整理統合	
	○								
説明	サワラ種苗の受入、中間育成及び放流活動に対する人的支援及び補助金交付。また、県の財政危機宣言をうけて、試験研究費が半減となったため、栽培漁業センターにおける種苗生産事業が見直され種苗放流尾数も大幅減となる。								

総合評価		評価区分<A~E>		妥当性		有効性		効率性	
C	C	県の財政危機宣言をうけて種苗放流尾数が大減となるが、栽培漁業は「つくり育てる漁業」の中核をなす施策であり、これまでの放流によって、漁獲量の安定、増大のみならず天然魚を含めた資源管理意識も漁業関係者に浸透している。特に、サワラは岡山県を代表する出世魚であるとともに観光振興の面でもPRし、備前市でも市魚に選定している。こうしたことから、特に、サワラの種苗生産に取り組み資源の増大及び回復をはかる必要がある。							

平成22年度以降の方向性・内容		方向性		状況		整理統合		廃止・完了	
方向性	拡充	現状継続		見直し		縮小			
説明	栽培漁業の効率性のかつ円滑な推進を図る。								
改善がある場合	評価の視点	改善内容		改善時期		改善により期待される効果			